関西学院 千里国際中等部・高等部

新シリーズ「Authentic Opportunities 本物に触れる教育」 第９回

「平和学入門」の授業実践について

社会科 野島 大輔

「平和学」という学問をご存知でしょうか。 世界では、 あらゆる学問分野の成果を応用し、 世界平和の実現のために役立てて行くことを目指して、 国際平和学会が 1965 年に設立されています。 日本国内では 1973 年に日本平和学会が発足し、様々な学問分野の壁を超えて、 平和な世界を創り出すための科学的な研究が進められています。

関西学院千里国際では、 海外帰国生徒や外国籍の生徒・教員が多い環境のもと、 入学式での世界人権宣言への宣誓署名が開校時から行われ続けているように、 文化の違いを超えた「小さな国際社会」を実現するという目標を置いています。

その特徴ある科目の一つが、 平和学の成果を踏まえた、 高等部の自由選択科目「平和学入門」です。 この科目は創立直後から置かれていた科目「地球社会と個人」を発展的に改題したもので、平和学や国際関係論の知見を基本に置きつつ、生徒たちの創意工夫を最大限に活かして、 あらゆる暴力の極小化されたグローバルな世界秩序の像を探る「世界リフォーム計画」をグループで作成することを最も中心的な課題としています。 この科目では、 平和と暴力の概念や紛争解決法（トランセンド法）の基本を学んだ後、 歴史上の国際社会のシステムをそれぞれアクティヴ・ラーニングの形式で疑似体験しながら、 武力紛争や世界の不公正の真因をつきとめ、 さらにはその解決策をグループで練り上げて行きます。

オリジナル教材「超大国と世界の国々」のシミュレーション風景

1994 年の「地球社会と個人」の授業の始まりは、 世界史や政経の教科書の読み取りに飽き足らず、「集まって話したりしよう!」という自主的なノート交換をしていた生徒たちの求めに応じてのことでした。 当時から千里国際では、 中等部3年で社会科学の根本的な論題（性善説と性悪説、 戦争はなくせるか、 など）を扱うディベートを、 高等部1年生では、 地球的な諸問題、 文化の違いとそれを乗り越える方法、 地球市民の精神、 などをテーマに、 ゲームやプレゼンテーション、 論文作成などの演習を中心に据えた学習を始めていました。 さらにその上に「身近な社会問題を地球大に考えてみよう」というテーマで、 少人数での討論を主体にした授業が、 この「地球社会と個人」の授業でした。

日本国内でも以前から、 ヒロシマやナガサキの被爆や沖縄戦での被害、 それにアジア太平洋地域での加害状況について学ぶ「平和学習」は盛んに行われてきました。 ところが、 冷戦が終わり世紀が変わって、 世界でいわゆる「テロリズム」対「国家テロリズム」の争いが繰り広げられるようになると、 国際関係の理論は多様化し、 反核と憲法の平和主義の尊重を基本とした従来の学習方法では、「今、 どうしたら、 世界を平和にできるのか?」という新しい世代からの求めには応え切れなくなりました。 戦争の背景にある様々な対立や貧困・差別についても、 戦争の防止や紛争の解決のためには切っても切り離せない関係にあることが、 次第に強く提唱されるようになりました。 戦争の残酷さを知り平和を願うという感性主体の教育手法についても、 平和教育界の内・外から見直しの必要性が指摘されていました。 そこで、 2007-08 年度に休職期間をいただき、 次の世代のために必要とされる、 平和学の成果を直接に活かした社会科教育について、 改めて一から学ばせて頂くこととなりました。

本誌は主に北米地域ご在住の方がご覧下さっているものと存じておりますが、 研究所属先の立命館大学と提携のあるワシントン DC のアメリカン大学の Center for Global Peace に訪問研究員として滞在させていただき、大学院の「平和パラダイム」